

(様式第 10 号) (第 53 条、第 54 条の 2、第 55 条関係)

施工状況等報告書

平成 29 年 7 月 28 日

長野県知事 殿
(長野市長 殿)

住 所 長野市箱清水一丁目 3 番 8 号
氏 名 長野広域連合
広域連合長 加 藤 久 雄
〔法人にあつては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名〕

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項 (長野県環境影響評価条例第 40 条第 1 項において準用する同条例第 32 条第 1 項) の規定により、下記のとおり送付します。

記

対 象 事 業 の 名 称	長野広域連合 A 焼却施設建設事業
報 告 対 象 期 間	平成 29 年 4 月 1 日から 平成 29 年 6 月 30 日まで
環境の保全のための措置の状況	別添のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	別添のとおり

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

— 目 次 —

1. 環境の保全のための措置の状況	
1.1_環境保全措置状況 2
1.2_環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況 4
添付資料① 5
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真	
2.1_施工計画図 8
2.2_現況写真 9
2.3_工事工程表(4～6月) 10
2.4_主な工事写真 11

1. 環境の保全のための措置の状況

1.1_環境保全措置状況(1/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
1 大気質	(1) 工事関係車両の走行に伴う大気質	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理		
	土砂搬出車両の荷台のシート覆い		低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)	場内再利用により、場外土砂搬出は行わない予定です。	—	
	土砂運搬車両等のタイヤ洗浄		低減	タイヤ洗浄機を設置し、タイヤ洗浄の実施	タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。		
	(2) 建設機械の稼働に伴う大気質	対象事業実施区域	排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			建設機械稼働時間の抑制	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	
			建設作業機械の分散配置	低減	建設機械の配置に配慮し、住宅地から離れた位置に建物を計画	住宅地から離れた位置に建設機械を配置した。	
			ダンプトラックのアイドリング停止	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。	
(3) 建設機械の稼働に伴う粉じん	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。		
		排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。		
		工事区域への散水	低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施	散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。		
2 騒音	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。	
低騒音型機械の使用			最小化	低騒音型機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。		
建設機械の稼働時間の遵守			最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。		
3 振動	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など)	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低振動型機械の使用	最小化	低振動型機械の採用	振動の少ないアースオーガーを採用し杭工事での振動抑制に努めた。	
建設機械の稼働時間の遵守			最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。		
4 水質	(1) 工事による影響(平常時)	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施		
			濁水を抑制する揚水方法の選定	低減	仮設沈殿槽を設け、濁水処理の上、上澄水を放流	仮設沈殿槽を設け濁水化の防止を図った。	平成29年4月28日 施工状況報告書参照
			湧水の濁水化防止	低減	湧水揚水時は仮設沈砂槽に貯留し濁水化の防止	濁度測定により濁水を監視し、状況に応じ濁水処理後、上澄水を放流した。	
	(2) 工事による影響(降雨時)	対象事業実施区域	地区外流出抑制対策の実施	低減	工事区域内での地下浸透の促進、素掘り側溝の設置	雨水は素掘り側溝、工事用仮設井戸、排水釜場を設け、場内に地下浸透していることを降雨時に監視し、場外への濁水流出防止を図った。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			仮設沈砂池の設置	低減	仮設沈砂池の設置により、濁水流出の低減		
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水処理の上、上澄水を放流		
			凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ、凝集剤による土壌の沈殿促進		
5 水象	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施		
			止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化		
			地下水位モニタリングの実施	低減	地下水位計による地下水位モニタリングの実施		

【環境保全措置の種類】

回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正: 影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

1.1_環境保全措置状況(2/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	
				種類	実施内容	実施状況		
6 土 壌 汚 染	(1)工事による影響	対象事業実施区域	土砂搬出車両荷台のシート覆い	低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)	場内再利用により、場外土砂搬出は行わない予定です。	— 平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
			土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	低減	タイヤ洗浄機を設置し、タイヤ洗浄の実施	タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。		
			工事用出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施			
			工事区域への散水	低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施			
7 地 盤 沈 下	(1)工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施			
			止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化			
			地下水水位モニタリングの実施	低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施			敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しています。
			流動化物(砂等の礫間充填物)を採取しない揚水方法の採用	低減	揚水抑制により、流動化する砂礫等の採取低減			施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。
8 植 物	(1)緑化	対象事業実施区域	公共施設としてふさわしい規模の緑化	修正	緑化率20%を確保	外構設計にて以下の点を考慮の上、協議中です。 ・緑化率20%の確保 ・在来種の選定 ・屋上緑化・壁面緑化の採用	—	
			現存植生等を考慮した植栽及び緑化	修正	植栽及び緑化に在来種を選定			
			屋上緑化・壁面緑化	代償	屋上緑化・壁面緑化を検討			
9 動 物	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の 工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じます。	—	
10 生 態 系	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の 工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じます。	—	
11 景 観	(1)工事による影響	対象事業実施区域	工事区域周辺への仮囲いの設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。 (周辺環境に配慮した白色系の仮囲いを採用)	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
			仮囲いの色彩等の考慮	低減	住宅地を考慮した仮囲いの色彩、デザインを採用			
12 ふ れ あ い 活 動 の 場	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」の工事による影響 の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、水質」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、水質」の項目に準じます。	—	
13 廃 棄 物 等	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の再利用	低減	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	場内発生土を造成盛土として再利用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設廃棄物は分別搬出の上再利用を行っています。	—	
			現場での分別排出	低減	現場発生廃棄物の分別搬出	現場発生廃棄物は分別搬出を行っています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照	

【環境保全措置の種類】

回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

最小化:実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。

修正:影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。

低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

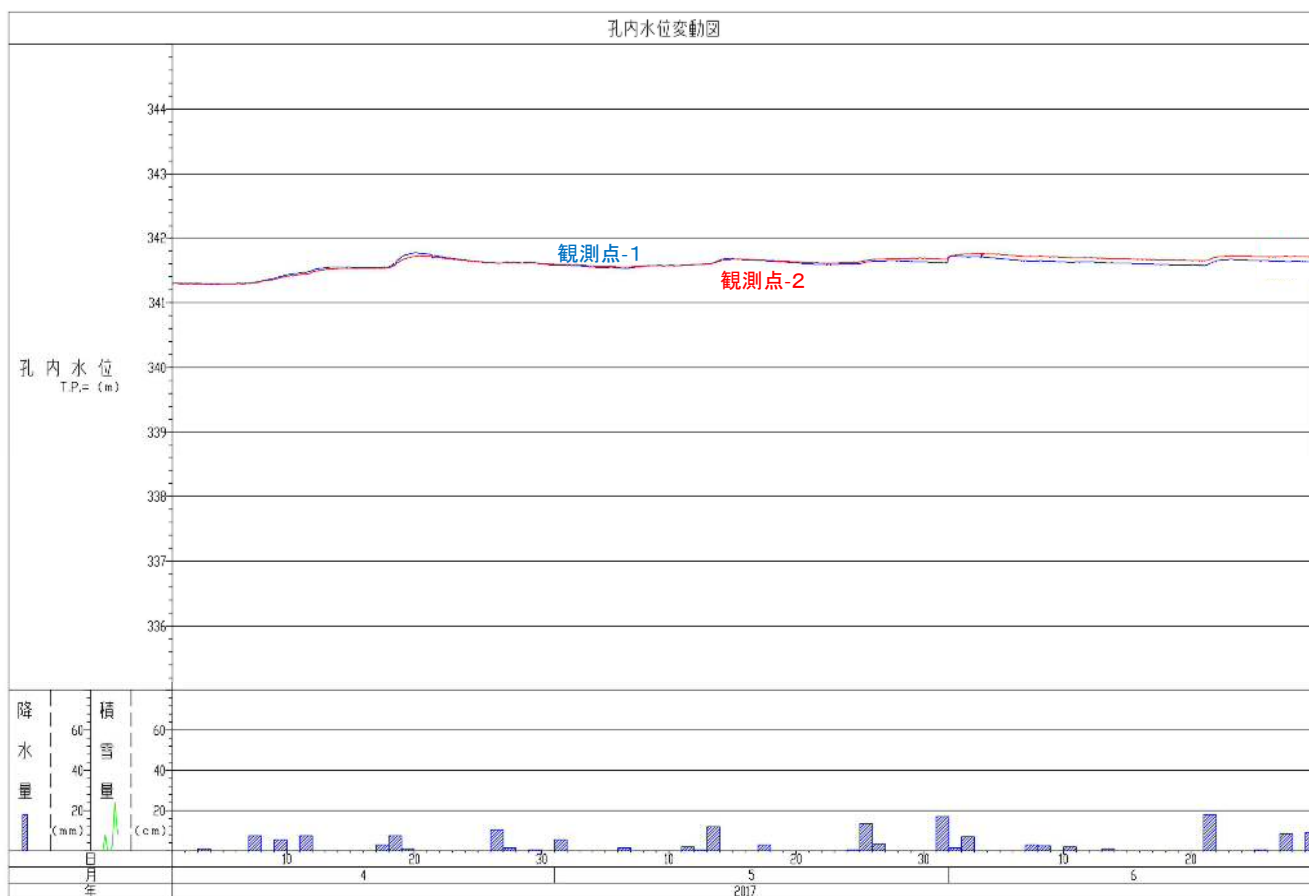
代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

1.2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文)	長野広域連合の見解 (工事中に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
					種類	実施内容	実施状況	
1 事業内容	「事業の実施にあたっては周辺住民の安全・安心を確保するため、引き続き積極的な情報公開に努めること。」	「周辺住民の安全・安心を確保するための情報公開を、引き続き積極的に実施してまいります。」	対象事業実施区域	周辺住民の安全・安心確保のための情報公開	—	工事用看板を設置し、工事に関する情報を掲示	お知らせ看板等を掲示しています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照
					—	長野広域連合ホームページでの情報公開	建設状況に関する情報を長野広域連合ホームページで公開しています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照
2 悪臭	「廃棄物運搬車両の内部洗浄を行う場合は、類似事例を調査するなどして、悪臭に対する苦情が発生しないようにすること。」	「廃棄物運搬車両の洗車場は、屋内に設けるとともに臭気の漏洩を防止します。」	対象事業実施区域	廃棄物運搬車両の洗車場を屋内設置	低減	洗車場を屋内配置する施設設計の実施	廃棄物運搬車両の洗車場を屋内配置する設計としています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照
3 水質・水象	「工事中の豪雨などによる濁水の流出については、計画施設の設計や施工の段階において適切な保全対策を講じるとともに、事後調査にあたっては、速やかに状況を確認すること。」	「計画施設の設計や施工の段階において、豪雨時での濁水流出を防ぐ適切な保全対策を講じます。また、事後調査にあたっては、速やかに状況を確認いたします。」	対象事業実施区域	施工段階での豪雨時の濁水流出対策	低減	素掘り側溝、仮設井戸による地下浸透	素掘り側溝、工事用仮設井戸、排水釜場を設け、場内に地下浸透していることを豪雨時に監視し、場外への濁水流出防止を図っています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
				事後調査における状況確認	低減	降雨時の濁水状況の監視	濁度測定により濁水状況を監視しています。	平成29年4月28日 施工状況報告書参照
	「工事中における地下水の揚水については、工事前からモニタリングによる地下水水位の状況把握を行うとともに、計画施設の設計や施工の段階において、揚水による影響の解析を行い、適切な保全対策を講じること。」	「計画施設の設計や施工の段階において、揚水による影響の解析を行い、適切な保全対策を講じます。また、掘削工事に伴う揚水期間中及びその前後において、モニタリングによる地下水水位の状況把握を行い、揚水が与える影響についての適切な環境保全措置を実施いたします。」	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	平成28年10月28日 施工状況報告書参照
地下水水位モニタリングの実施				低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施	敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しています。	平成29年1月27日 施工状況報告書参照	

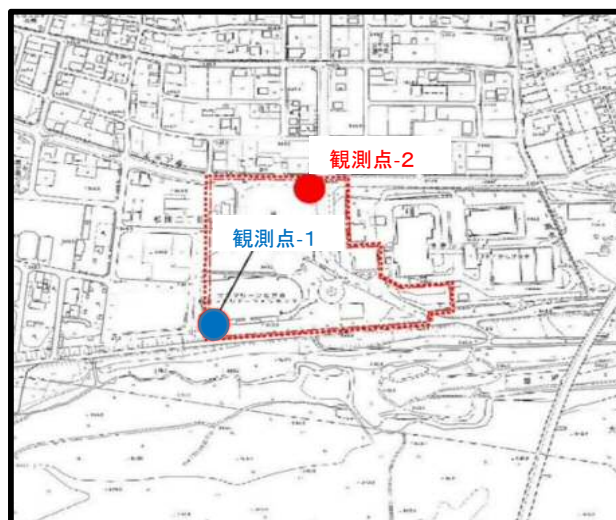
【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正: 影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

■地下水位モニタリング(結果)



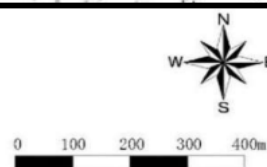
(考察)

敷地内における地下水位計(2箇所)において、孔内水位変動の観測を行った。
 前回同様、2箇所における地下水位の変動がほぼ同じであることから、敷地内での地下水位は均一していることがわかる。
 また、4月から6月の地下水位(平均)も341.6TP.mとなっており、環境影響評価書に示される地下水位(年平均)342.0TP.mと地下水位の変動幅(0.78~1.05m)から判断しても工事による影響はないと考える。
 本期間中も地下水位に大きな変動は見られなかった。



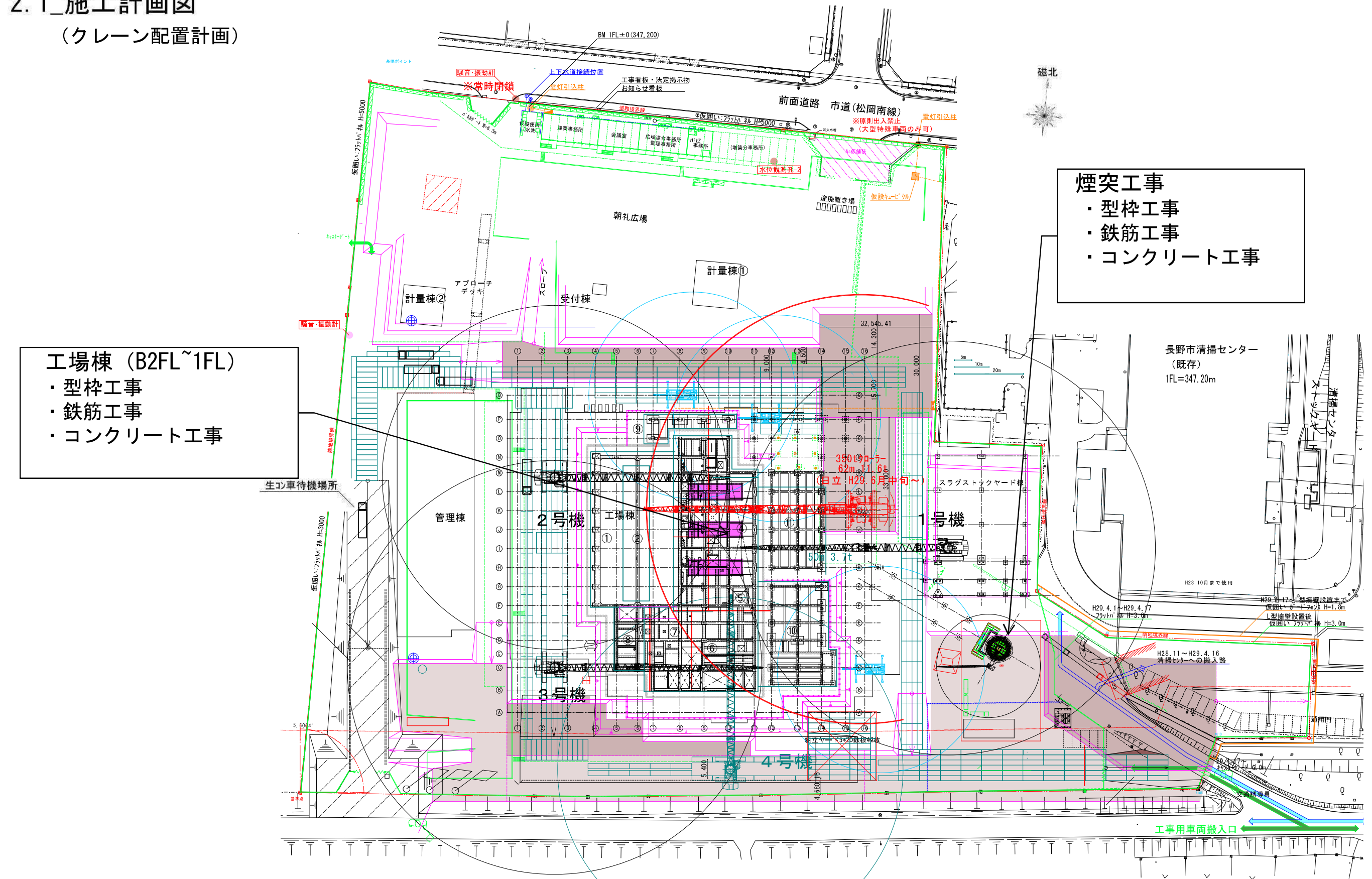
	地下水位(TP.m)		
	4月	5月	6月
観測孔①	341.5	341.6	341.6
観測孔②	341.5	341.6	341.7
(平均)	341.6		

TP.: TokyoPeil(東京湾平均海面)で標高の基準となる値を指す。



2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

2.1_施工計画図 (クレーン配置計画)



煙突工事

- ・型枠工事
- ・鉄筋工事
- ・コンクリート工事

工場棟 (B2FL~1FL)

- ・型枠工事
- ・鉄筋工事
- ・コンクリート工事

長野市清掃センター
(既存)
IFL=347.20m

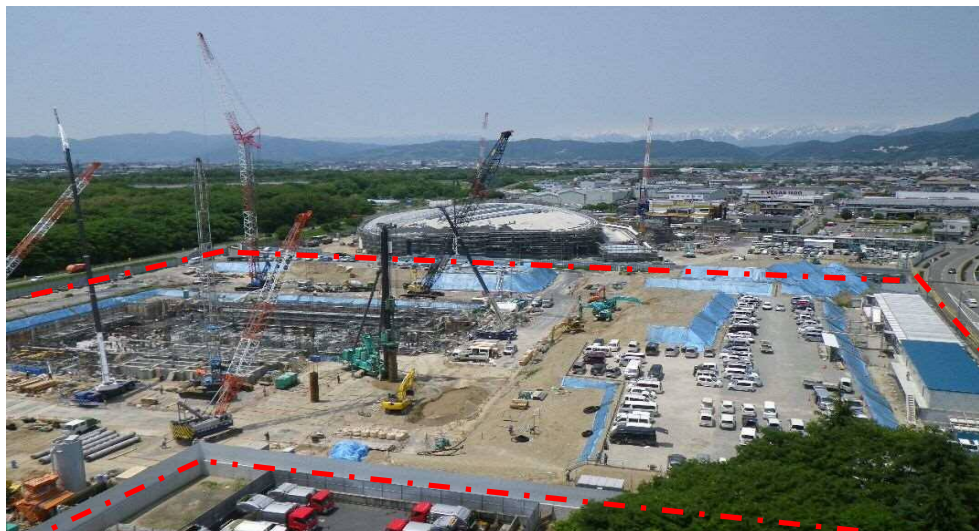
「(仮称)長野広域連合A焼却施設」建設工事 日立造船・北野建設特定建設工事共同企業体		特記事項	設計施工管理 パシフィックコンサルタンツ㈱	受領印 年 月 日	工事名 「(仮称)長野広域連合A焼却施設」建設工事	縮尺 A1 A3 1/500 1/1000
HILZ 承認 建設 作成	KITANO				図書名 総合仮設計画図 (施工図)	図書 仮-J01

2.2_現況写真

(凡例) - - - : 敷地境界線



4月

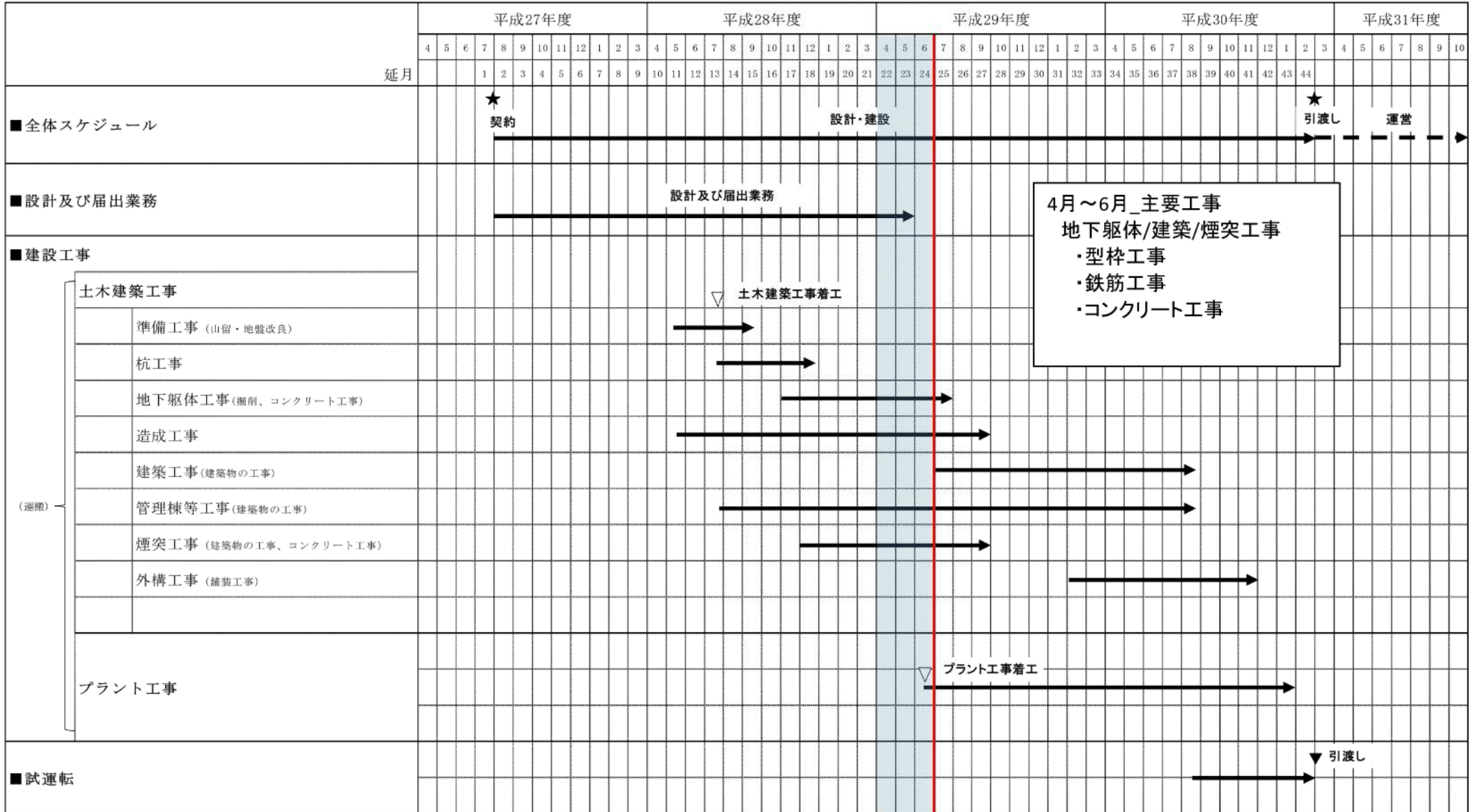


5月



6月

2.3_工事工程表(4月～6月)



2.4_主な工事写真



工場棟(型枠・鉄筋工事)



工場棟(コンクリート工事)



煙突(型枠・鉄筋工事)